



株式会社今仙電機製作所

2022年3月期通期決算説明会

2022年5月19日

イベント概要

| | | | |
|----------|--|---------------|--|
| [企業名] | 株式会社今仙電機製作所 | | |
| [企業 ID] | 7266 | | |
| [イベント言語] | JPN | | |
| [イベント種類] | 決算説明会 | | |
| [イベント名] | 2022 年 3 月期通期決算説明会 | | |
| [決算期] | 2021 年度 通期 | | |
| [日程] | 2022 年 5 月 19 日 | | |
| [ページ数] | 33 | | |
| [時間] | 11:00 – 11:32 (合計：32 分、登壇：27 分、質疑応答：5 分) | | |
| [開催場所] | 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催) | | |
| [会場面積] | 145m ² | | |
| [出席人数] | | | |
| [登壇者] | 3 名 | | |
| | 代表取締役社長執行役員 | 櫻井 孝充 (以下、櫻井) | |
| | 取締役執行役員 | 堀部 修一 (以下、堀部) | |

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



執行役員

井上 達嗣（以下、井上）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから株式会社今仙電機製作所様の 2022 年 3 月期第 4 四半期および通期決算説明会を開催いたします。まず最初に同社からお迎えしております 3 名様をご紹介申し上げます。代表取締役社長執行役員、櫻井孝充様。取締役執行役員、堀部修一様。執行役員、井上達嗣様。

本日は代表取締役社長、櫻井様、取締役執行役員、堀部様、このお二方から、ご説明いただきます。ご説明いただいた後、質疑応答の時間を取らせていただきます。それではどうぞよろしく願いいたします。

櫻井：皆さん、こんにちは。私は株式会社今仙電機製作所、代表取締役社長、櫻井孝充でございます。本日、大変恐縮ですが、マスクは外してお話しさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

また、本日も多用中のところ、当社の 2022 年 3 月期決算説明会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本日は、当社の 2022 年 3 月期決算の概要および 2023 年 3 月期通期業績見通しのご説明、続いて事業トピックス、配当についてご説明申し上げます。

なお、業績に関するご説明につきましては、グローバル経営事業本部、取締役執行役員である堀部よりご説明申し上げます。事業トピックス、配当に関する内容につきましては、私から説明させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは堀部さん、よろしく願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



| 単位：百万円 | 前期 (21/3期) | 当期 (22/3期) | 増減額 | 増減率 |
|--------|---------------|----------------|---------|--------|
| 売上高 | 87,096 | 85,155 | ▲ 1,941 | ▲ 2.2% |
| 営業利益 | ▲ 790 | ▲ 70 | 720 | — |
| 経常利益 | ▲ 581 | 616 | 1,197 | — |
| 当期純利益 | ▲ 3,081 | ▲ 1,210 | 1,871 | — |
| 配当 | 15円 | 15円 | 0円 | — |

為替

| | | | | |
|--------|---------|---|----|---------|
| USD：前期 | 106.76円 | → | 当期 | 109.90円 |
| CNY：前期 | 15.48円 | → | 当期 | 17.04円 |
| THB：前期 | 3.42円 | → | 当期 | 3.44円 |

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

4

堀部： こんにちは。グローバル経営事業本部を担当しております堀部と申します。本日はよろしくお願いたします。私もマスクを外してお話しさせていただきます。私から2022年の3月期決算の概要についてご説明をさせていただきます。

売上高につきまして、主要事業でございます自動車関連業界におきまして、半導体供給不足の影響が大きく、主要取引先様の自動車生産台数が前期と比べ減少したことに伴いまして、前年同期に対して2.2%の減少となる851億5,500万円となっております。

利益に関しましては、営業利益は7,000万円の損失となりまして、損失幅は減少してございます。

経常利益に関しましては、為替差益の影響などに伴いまして、6億1,600万円となっております。

当期純利益に関しましては、今仙電機単体におきまして固定資産の減損損失の計上、工場再編に伴う固定資産処分損を計上したこともございまして、12億1,000万円の損失となっております。

なお、配当につきましては前期と同様15円としてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

5

営業利益の前期からの変動の要因のご説明をさせていただきます。

売上の減少、鋼材等の原材料高騰といった悪化影響がございますが、収益改善といたしまして、労務費の改善、経費抑制、品質ロスの削減等の活動に取り組んだ他、為替の差益もございまして挽回を図っております。

しかしながら、滞留した在庫等の処分などの一過性の悪化要因もございまして、前期に対しまして7億2,000万円の改善を行いましたが、7,000万円の営業損失となっております。

サポート

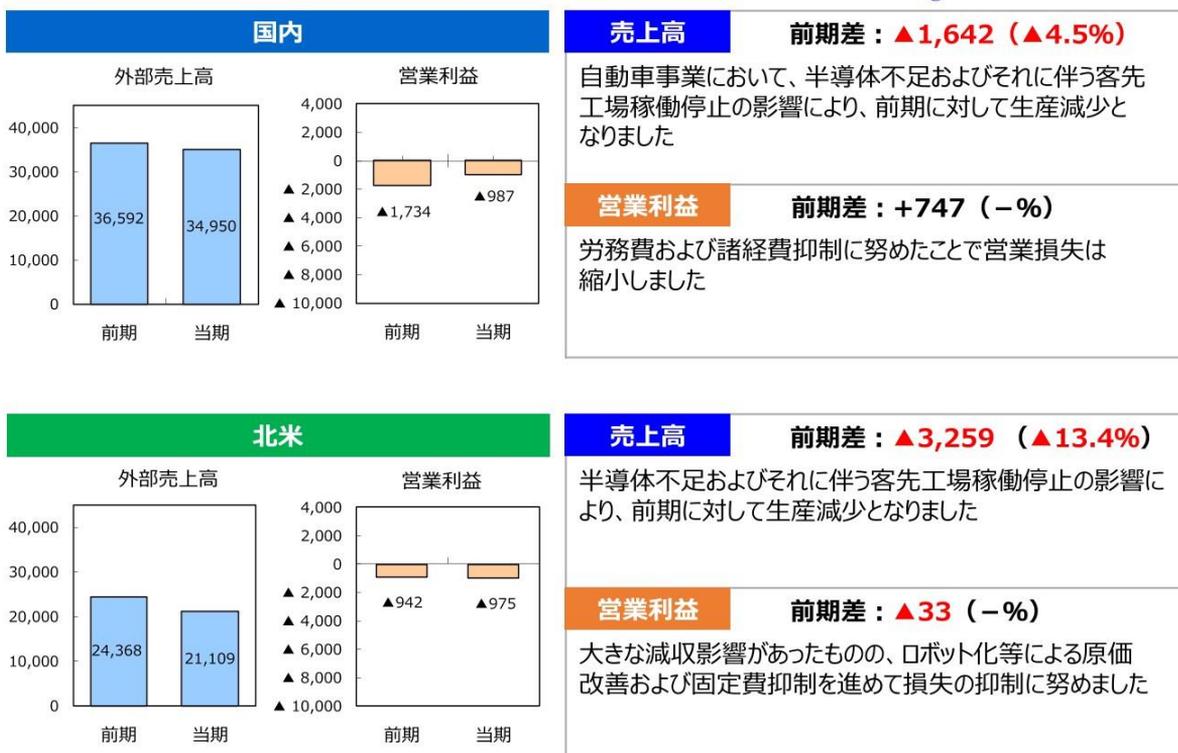
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2022年3月期 セグメント別実績



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

6

続きまして、地域別セグメントの状況となります。

国内におきましては、自動車事業において半導体不足の影響、およびそれに伴う客先工場稼働停止の影響に伴い、前期に対して生産減少となっております。一方で、労務費や諸経費の抑制に努めたことで、営業利益は損失が縮小しております。

北米におきましては、同様の理由での生産減少が大きく影響し、減収となっております。営業利益におきましては、原価改善、固定費抑制等を進めたことにより、損失の抑制に努めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

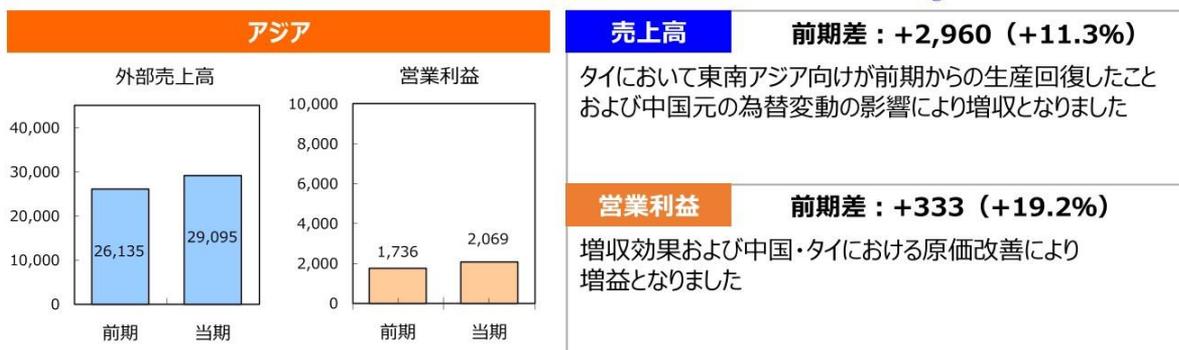


2022年3月期 セグメント別実績

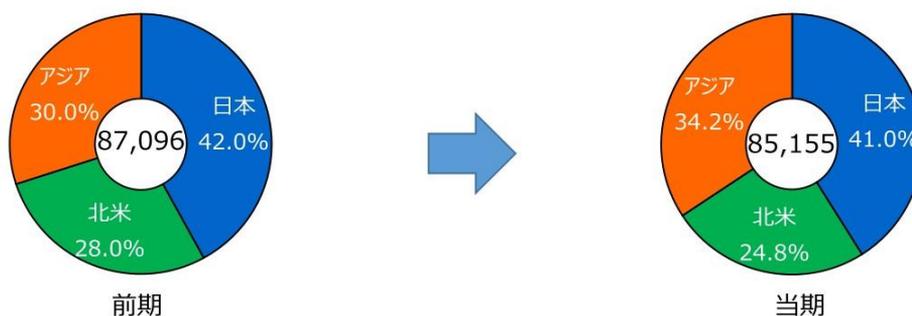


(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



事業の地域別 売上高構成



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

7

こちらはアジア地域となっております。

新型コロナウイルスの感染影響が落ち着いて、タイにおけるいすゞ自動車向けの生産回復、および中国元の為替効果に伴いまして、増収増益となっております。これに伴いまして、アジアの構成のウェイトが、こちらの30%から34.2%となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



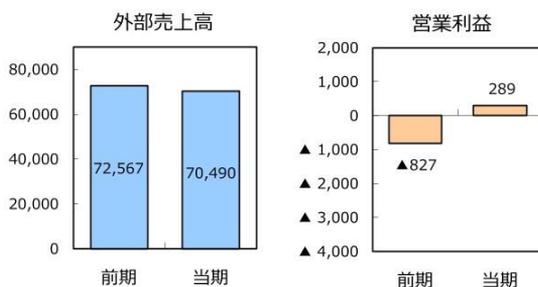
2022年3月期 事業別実績



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



売上高

前期差：▲2,077 (▲2.9%)

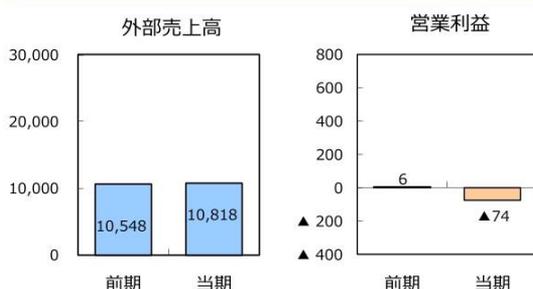
北米における半導体不足およびそれに伴う客先工場稼働停止の影響により前期に対して生産減少となりました

営業利益

前期差：+1,116 (-%)

諸費用抑制およびロボット化等による原価改善を進めたことで黒字化しました

電子事業



売上高

前期差：+270 (+2.6%)

ほぼ横ばいで推移しました

営業利益

前期差：▲80 (-%)

将来に向けた開発費負担および試験設備の導入によるリース費用増加により減益となりました

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

8

続きまして、事業別の状況をご説明させていただきます。

グループの柱となるシート・電装事業におきましては、半導体供給不足の影響などにより前期と比べ減収となりましたが、原価改善活動などにより増益の黒字となっております。

電子事業におきましては、売上はほぼ横ばいで推移いたしましたが、営業利益におきましては、将来に向けた開発の費用、および試験設備の導入によるリース費用の増加などに伴いまして、減益となっております。

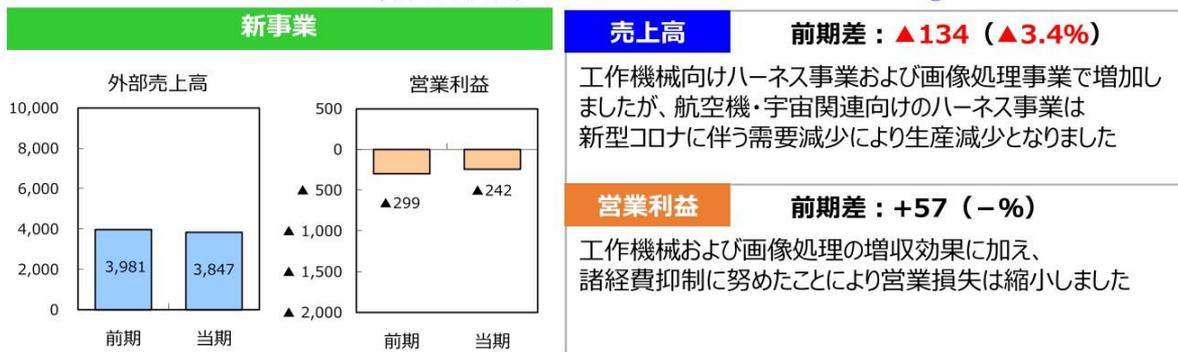
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



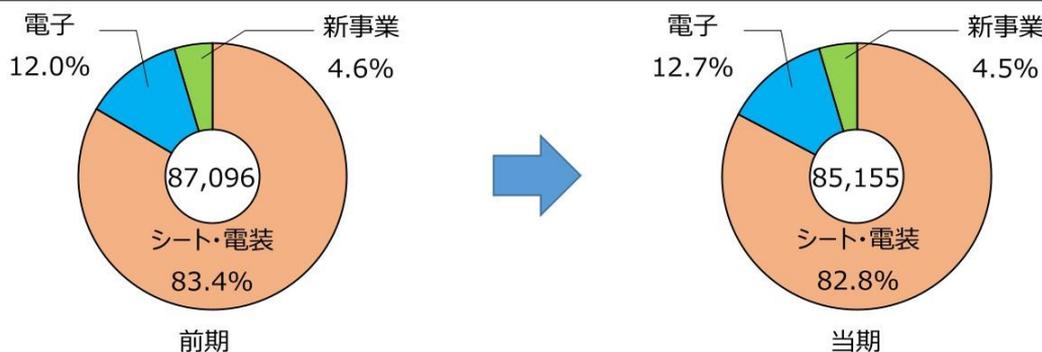
(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

事業の種類別 売上高構成



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

こちらは新事業の状況となります。

新事業におきましては、当社の開発センターにおいて取り組んでおります新事業創出に加え、各国国内グループ会社にて手掛ける既存の非自動車関連事業も含んでございます。

国内グループのワイヤーハーネス事業におきまして、コロナ禍での航空機を中心とした生産減少が影響したことに伴い、前期と比べ減収となっておりますが、経費の抑制等に努めたことにより、営業損益は前期並みとなっております。

事業の種類別売上高の構成におきましては、シート主体の事業構成に大きな変化はございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

設備投資

| | 前期 (21/3期) | 当期 (22/3期) | 増減額 |
|-----|---------------|---------------|-------|
| 国内 | 1,537 | 1,706 | 169 |
| 北米 | 296 | 1,204 | 908 |
| アジア | 1,579 | 1,037 | ▲ 542 |
| 合計 | 3,412 | 3,947 | 535 |

- ・国内
電子事業強化のため、広島第2テクニカルセンターを建設しました
岐阜工場に太陽光発電を導入しました
- ・北米
新製品立ち上げに伴い設備、金型費が増加しました

減価償却費

| | 前期 (21/3期) | 当期 (22/3期) | 増減額 |
|-----|---------------|---------------|-------|
| 国内 | 2,374 | 1,902 | ▲ 472 |
| 北米 | 324 | 869 | 545 |
| アジア | 1,184 | 1,100 | ▲ 84 |
| 合計 | 3,882 | 3,871 | ▲ 11 |

- ・国内、アジア
前期の投資抑制により、減価償却費が減少しました
- ・北米
新製品立ち上げに伴う設備、金型の減価償却費が増加しました

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

10

続きまして、設備投資と減価償却費の実績でございます。

設備投資におきましては、国内が1億6,900万円増加をし、17億600万円となっております。こちらは、電子事業の拡大に向けて、広島の第2テクニカルセンターの建設をしたこと、ならびにCO2排出量の削減の取り組みといたしまして、岐阜工場に太陽光発電を導入したことなどによります。

北米におきましては、新規製品の立ち上げに伴いまして、ロボットを活用した省人ならびに合理化の設備の導入を行っております。その結果、全体では5億3,500万円増加して、39億4,700万円となっております。

減価償却費に関しましては、北米において新製品の立ち上げに伴う増加がございましたが、前期での投資抑制に伴いまして、1,100万円減少して、38億7,100万円となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

| 単位：百万円 | 当期 (22/3期) | 今期予想 (23/3期) | 増減額 | 増減率 |
|--------|---------------|-----------------|--------|-------|
| 売上高 | 85,155 | 96,700 | 11,545 | 13.6% |
| 営業利益 | ▲ 70 | 100 | 170 | — |
| 経常利益 | 616 | 330 | ▲ 286 | — |
| 当期純利益 | ▲ 1,210 | ▲ 930 | 280 | — |
| 配当 | 15円 | 15円 | 0円 | — |

為替

| | | | | |
|--------|---------|---|------|---------|
| USD：当期 | 109.90円 | → | 今期予想 | 120.00円 |
| CNY：当期 | 17.04円 | → | 今期予想 | 18.80円 |
| THB：当期 | 3.44円 | → | 今期予想 | 3.60円 |

続きまして、2023年3月期の連結業績の見通しについてご説明をさせていただきます。

売上高に関しましては、主要事業でございます自動車関連業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響がございますが、若干の生産の回復を見込んでございます。これに伴いまして、売上高は前期に対して13.6%の増加となる967億円、営業利益は1億7,000万円の増加となる1億円の見通しでございます。

経常利益は、2億8,600万円の減少となる3億3,000万円でございますが、こちらは当期には3億4,300万円の営業外の為替益が含まれてございますので、そちらを除きますと5,700万円の増加でございます。

純利益は2億8,000万円の増加をいたしますが、9億3,000万円の損失となる見通しでございます。

なお、為替レートにおきましては1ドル120円での算出としてございます。

配当に関しましては前期と同様、1株当たり15円の予定としてございます。

サポート

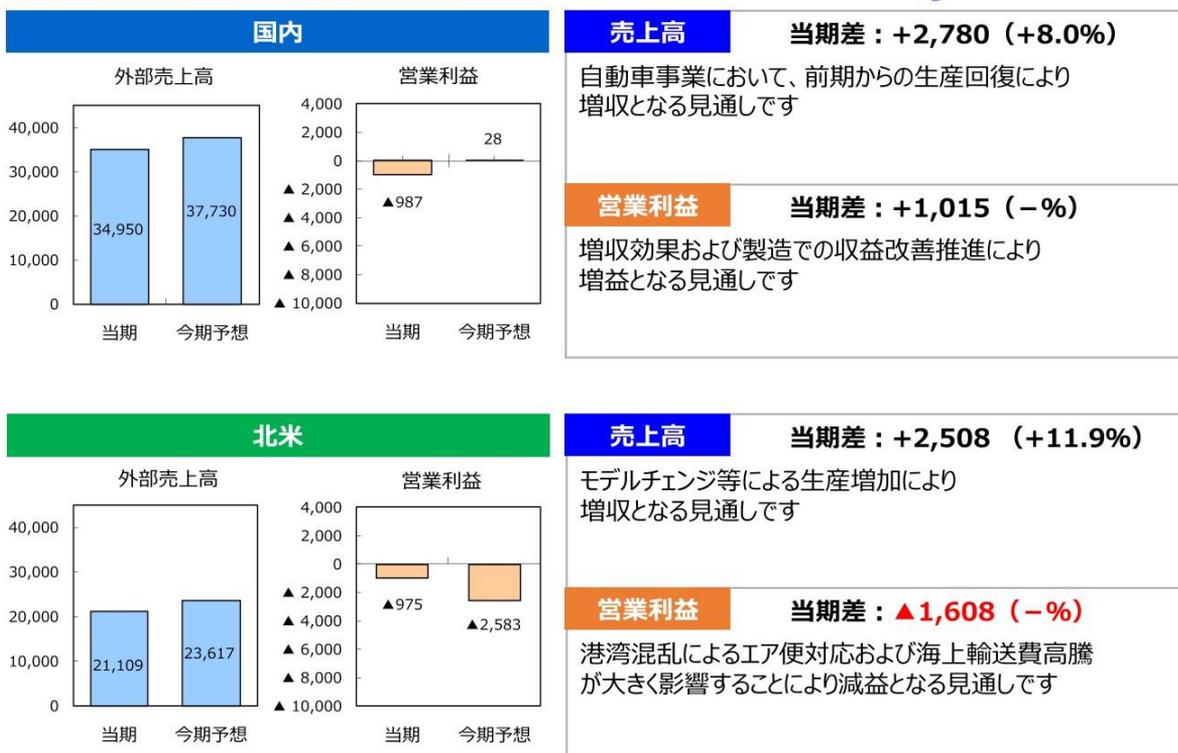
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2023年3月期 セグメント別予想



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

13

続きまして、セグメント別の通期の見通しでございます。

国内におきましては、自動車事業の前期からの生産回復に伴い、増収増益となる見通しでございます。

北米地域におきましては、生産の回復に加え、為替レートの変動に伴う為替影響もございまして増益が見込まれますが、港湾の混乱に伴う多額の特別便費用の発生や、海上輸送費の高騰が影響することにより、営業損失となる見通しでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

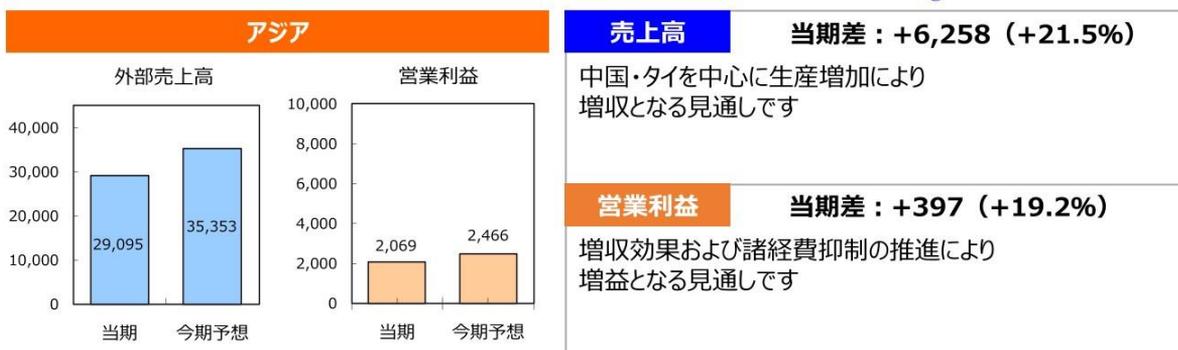


2023年3月期 セグメント別予想

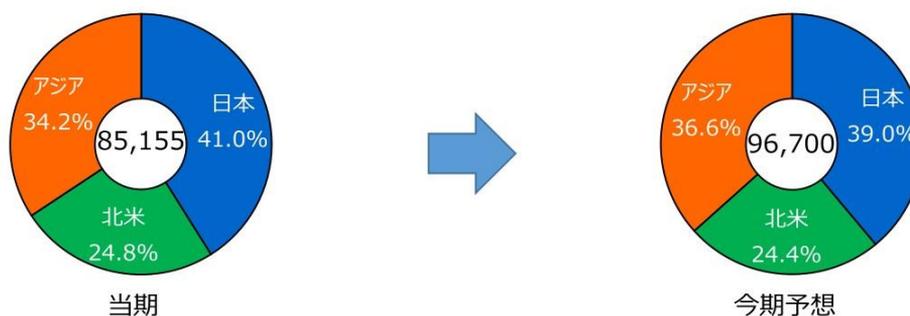


(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



事業の地域別 売上高構成



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

14

アジア地域に関しましては、中国およびタイにおける生産増加が見込まれていることから、増収増益となる見通しでございます。事業の種類別売上高の構成におきましては、大きな変化は生じない見通しでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



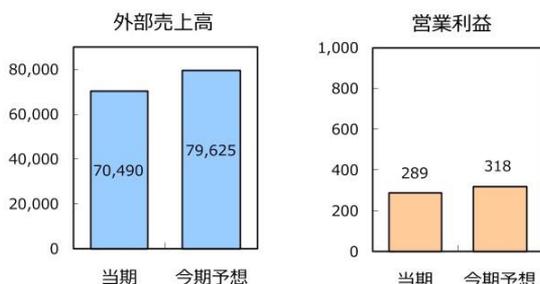
2023年3月期 事業別予想



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



売上高

当期差：+9,135 (+13.0%)

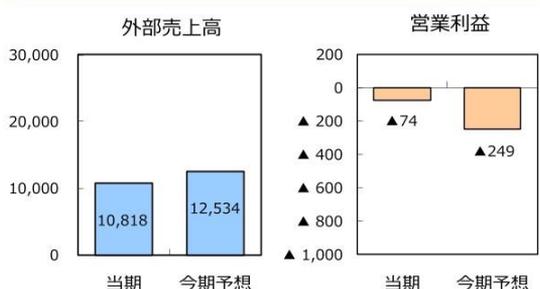
国内およびアジアでの生産増加により増収となる見通しです

営業利益

当期差：+29 (+10.0%)

増収効果より増益となる見通しです
一方で北米を中心とした港湾混乱によるエア便対応および海上輸送費高騰の影響を見込んでいます

電子事業



売上高

当期差：+1,716 (+15.9%)

新モデルへの搭載等による生産増加により増収となる見通しです

営業利益

当期差：▲175 (-%)

増収効果があるものの、電動化に係る新製品の開発およびサイバーセキュリティ対応等の先行投資負担があり減益となる見通しです

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

15

続きまして、事業別の通期見通しでございます。

シート・電装事業におきましては、各地域での生産回復や為替の影響もございまして増収となる見通しでございます。利益につきましても、北米での物流費負担の影響はございますが、労務費等の抑制に伴い増益となる見通しでございます。

電子事業におきましては、新モデルの搭載が予定されておりました、増益となる見通しでございます。営業利益に関しましては、電動化に関わる新製品の開発、ならびにサイバーセキュリティ対応等の先行投資負担もございまして、減益となる見通しでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

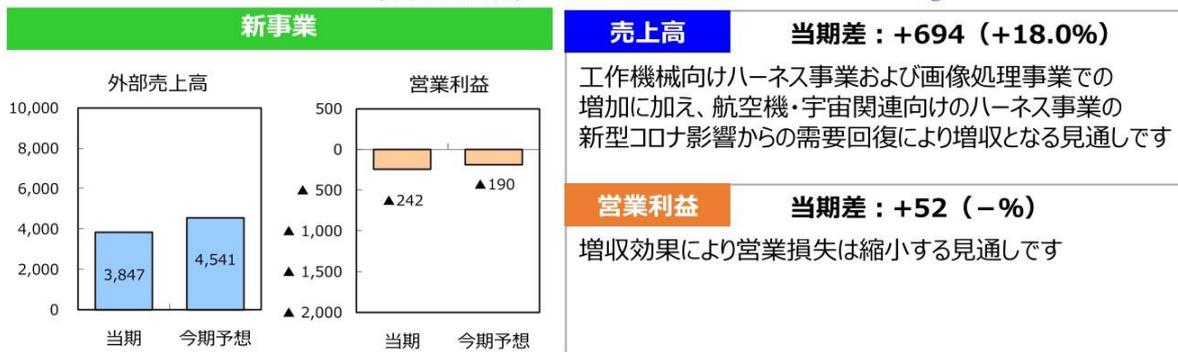


2023年3月期 事業別予想



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

事業の種類別 売上高構成



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

16

新事業につきましては、ワイヤーハーネス事業や画像処理事業での受注増加に伴い、増収となる見通しです。増収効果に伴いまして、営業損失は縮小する見通しでございます。

事業の種類別売上高の構成におきましては、大きな変化は生じない見通しではございますが、電子事業の割合は徐々に高まってきておりまして、今後は電子事業、新事業の構成比を一層高めてまいりたいと考えてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2023年3月期 設備投資・減価償却費 見通し



Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

| 設備投資 | | | |
|------|---------------|---------------|-------|
| | 前期 (22/3期) | 当期 (23/3期) | 増減額 |
| 国内 | 1,706 | 2,159 | 453 |
| 北米 | 1,204 | 228 | ▲ 976 |
| アジア | 1,037 | 1,223 | 186 |
| 合計 | 3,947 | 3,610 | ▲ 337 |

- ・国内
生産自動化設備の導入および電子製品へのサイバーセキュリティ対策により増加します
- ・北米
前期に新製品立ち上がりに伴う設備、金型費を計上しています
- ・アジア
新製品立ち上がりに伴い設備、金型費が増加します

| 減価償却費 | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| | 前期 (22/3期) | 当期 (23/3期) | 増減額 |
| 国内 | 1,902 | 1,433 | ▲ 469 |
| 北米 | 869 | 433 | ▲ 436 |
| アジア | 1,100 | 1,124 | 24 |
| 合計 | 3,871 | 2,990 | ▲ 881 |

- ・国内は今仙電機単体の減損損失の計上により減少します
- ・北米は金型の償却負担減により減少します

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

17

続きまして、設備投資と減価償却費の見通しでございます。

設備投資におきましては、国内で生産自動化の設備の導入、および電子製品に関わるサイバーセキュリティ対策を強化することに伴い、増加する見通しでございます。

一方、北米におきましては、前期にて新製品立ち上がりに伴う設備、金型費を計上していたことにより、減少を見込んでございます。

結果、全体では3億3,700万円減少いたしまして、36億1,000万円となる見通しでございます。

減価償却費に関しまして、国内における減損損失の計上、ならびに北米における金型償却負担減などに伴いまして、全体で8億8,100万円減少し、29億9,000万円となる見通しでございます。

以上、2022年3月期の決算概要、ならびに2023年3月期の連結業績見通しに関するご説明となります。

サポート

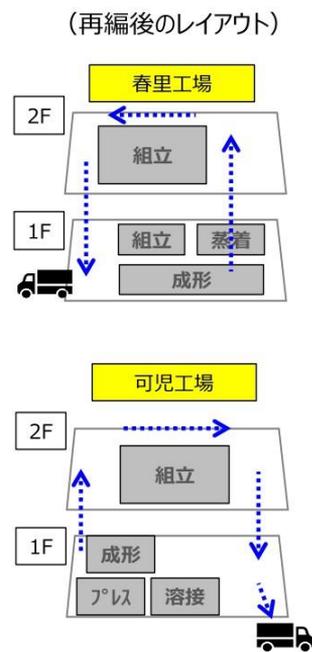
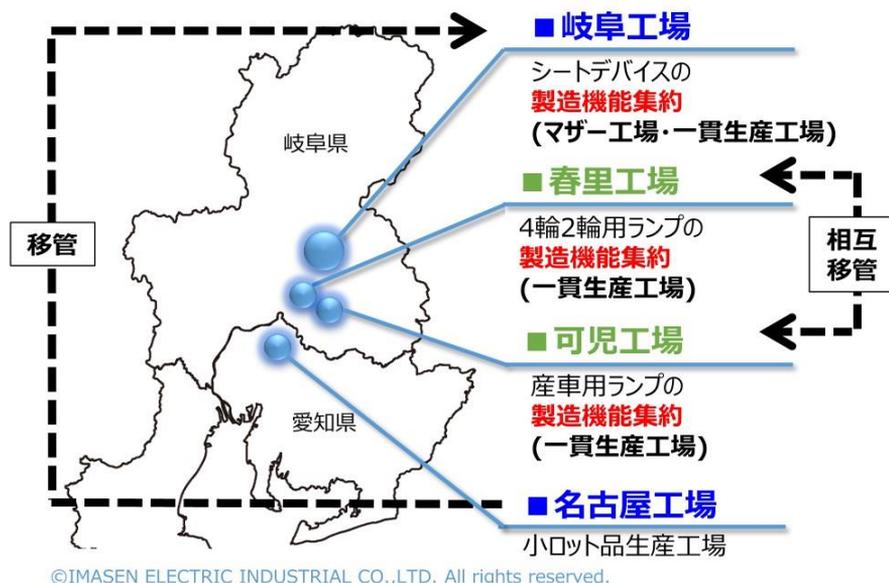
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



シート・電装事業

◆生産拠点再編の取り組み

以前より取り組んできました国内生産拠点の再編が完了しました。老朽化した工場建屋を統廃合し、機能別に集約することにより、工場間・工程間の物流コスト低減、管理費削減を実現しました。



櫻井：続きまして、各事業におけるトピックスにつきまして、私、櫻井よりご説明いたします。まず、シート・電装事業部における取り組みについてご説明いたします。

以前より取り組んでおりました国内生産拠点の再編が完了いたしました。シートアジャスタの製造に関しましては、主力製品の生産を岐阜工場に集約し、全世界のマザー工場として位置づけ、名古屋工場はプレス加工と小ロット製品の生産に特化させ、生産の効率化を図ります。

ランプの製造に関しましては、4輪、2輪用ランプを春里工場へ、産業車両用ランプを可児工場へ集約し、それぞれの工場で作成から組み立て、出荷までの一貫生産体制を構築しております。これにより、工場間および工程間の物流コストの低減、ならびに管理費の削減効果を創出していきます。

なお、名古屋工場など、再編において発生した余剰スペースについては、今後の新たな事業展開に備えて活用を検討してまいります。

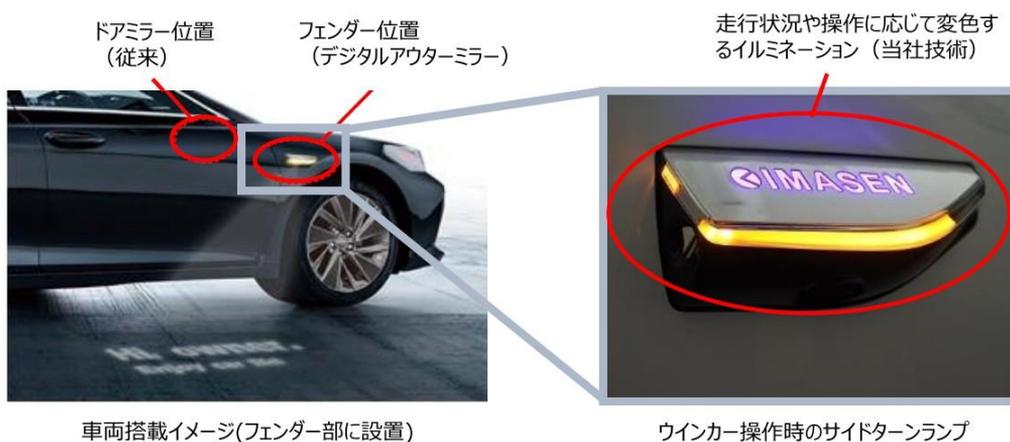
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

シート・電装事業

◆次世代自動車向けデジタルアウターミラー用ランプ開発

今回、次世代自動車向けデジタルアウターミラー用のランプ機能を開発しました。当社のLED配光技術およびレンズ素材による導光技術を用いて、ウインカー操作に合わせて発光するサイドターンランプのほか、開錠時のウェルカムランプ、周囲に合図や警告をするコーションランプ、そして自動運転の本格化に向けた自動運転ランプなどの多彩なイルミネーション機能による様々なコミュニケーションが可能で、車両のデザイン性向上にも貢献します。



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

20

電装事業では、次世代自動車向けの製品として、デジタルアウターミラーに対応可能なランプを開発しております。デジタルアウターミラーとは、従来のドアミラーの代わりに、小型高性能カメラの映像で左右後方を視認できるシステムでございます。

当社はこの製品に組み込まれるランプについて開発に携わり、当社のLED配光技術、およびレンズ素材による導光技術を用いて、ウインカー操作に合わせて発光するサイドターンランプ、開錠時のウェルカムランプ、周囲に合図や警告をするコーションランプ、自動運転時の識別ランプなど、多彩な機能の実装と車両のデザイン性向上を実現しており、今後、量産車への搭載を目指します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

電子事業

◆開発体制の強化 ～広島に第2テクニカルセンター新設～



電子事業の更なる拡大に向けて広島テクニカルセンターの拡充を図りました。

- ①エンジニアの増員
実績91名
(21年度目標90名、29年度目標146名)
- ②各種試験設備の充実
電磁環境両立性評価やモータ駆動評価
温度試験設備の導入により開発スピード
が大幅にアップします

①エンジニア増員



②各種試験設備



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

21

次に電子事業における取り組みです。

電子事業におきましては、さらなる規模の拡大に向けて、開発体制の一層の強化を図ることを目的として、広島に第2テクニカルセンターを建築し、昨年の4月から稼働しております。

当社が目指す電動駆動システムの開発に向け、開発人員の増強を行うとともに、開発に向けたモーターベンチや EMC 試験用の電波暗室を備えており、従来は外部の試験機関で行っていた評価を、社内で実施することが可能になることで、開発スピードを大幅にアップさせます。

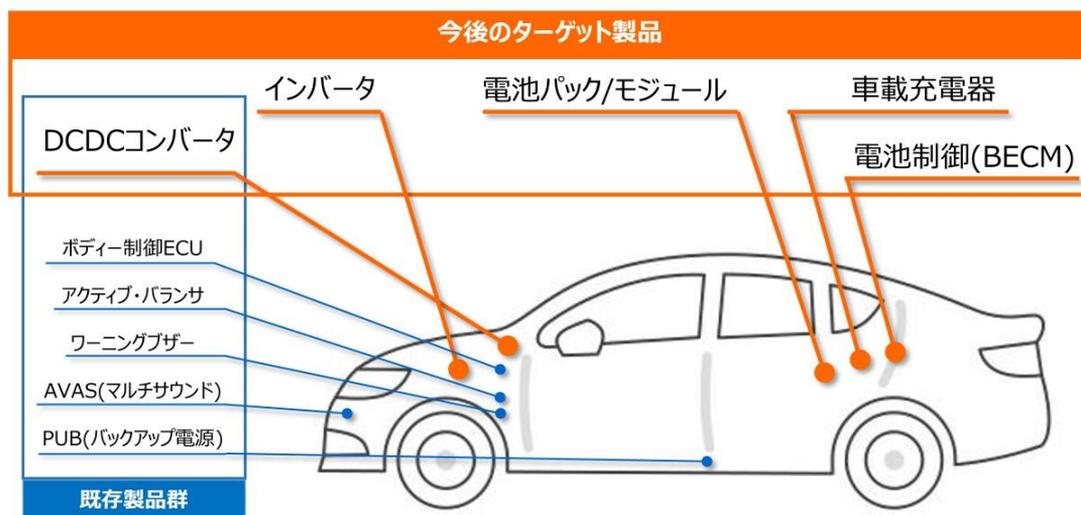
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電子事業

◆高付加価値製品の拡大

今後のIMASENグループにおいて第2の柱である電子事業の更なる成長に向けた戦略として、主力製品の高付加価値な電気駆動関連製品への拡大に取り組んでいます。



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

こうした開発体制により、製品領域の拡大に取り組んでおります。既存のボディー制御系 ECU などの製品群に加え、新たにインバーターや電池パック/モジュール等の、高付加価値な電気駆動関連製品の開発を進めております。

電動化に向け、急速に変革を進めるこれからの自動車づくりに当社も参画し、将来の基幹製品、基幹事業となるべく、最大限の努力をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

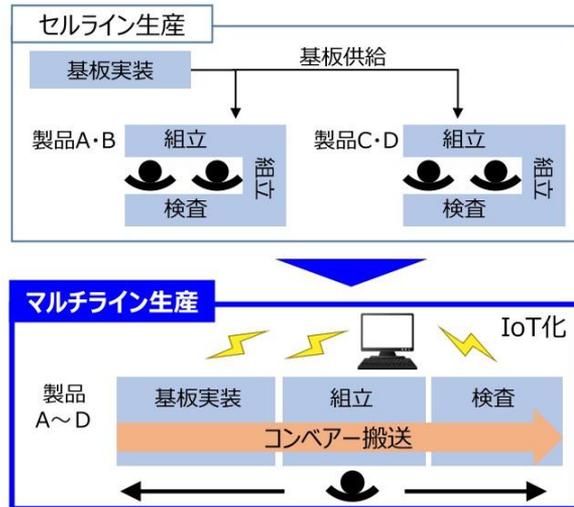
電子事業

◆コスト競争力強化・収益向上への取組み

電子ユニット組立ラインの新設にあたり、多品種混合生産ライン（マルチライン）を導入しました。省人化とともに多品種少量生産から、1品種多数生産までフレキシブルな対応が可能です。また、IoTによるトレサビリティ機能や、今後の無人生産ライン構築を見据えた基礎的な技術も備えています。



広島工場に新設されたマルチライン



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

また、生産技術においても新しい取り組みを行ってまいりました。当社ではセル生産方式と呼んでおりますけれども、設備を円形に並べた中に作業者を3~4人配置したラインを、製品ごとに設置する方式を取ってきました。

これに対して、新しいラインでは、直線上に各種工程の加工設備を置いたマルチライン方式としております。これにより、多品種少量生産から1品種多数生産まで、同一ライン上で生産できるフレキシブルな生産対応を可能にします。

また、IoTによるトレサビリティ機能や、将来的には、実装ラインと直結した無人生産ラインを構築する、基本的な技術を備えております。今後の製品設計の思想においても、この生産方式を想定し対応しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新事業開発

◆歩行測定システムの開発

長期ビジョンにおいて第3の柱となる新事業の創出に向けた基本製品として、歩行測定システムを開発しました。

今後、2023年での製品化に向けて進めます。

システムの特徴

- ・身体への測定マーカー装着が不要で測定対象者の負担が少ない
- ・軽量、コンパクト



動画撮影による歩行測定



歩行の特徴を図・数値で可視化

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

24

新事業の創出に向けた取り組みとしましては、3本目の新たな柱となる事業の構築を目指し、さまざまな開発に取り組んでおりますけれども、現在、基本製品として注力する歩行測定システムの開発をご紹介します。

人生100年時代に、いつまでも自分の足で歩きたいという思いをかなえるべく、無動力歩行支援機、aLQの販売により、人々のQoL、クオリティ・オブ・ライフの向上に貢献してまいりました。

現在、当社開発センターでは、人々の歩行の姿、歩容を研究し、歩き方を測定し分析してアドバイスを送ることで、人々の歩行能力を長く保つことができるような評価システムを開発しております。

この歩行測定システムでは、モーションキャプチャーなどで使われるようなマーカーなどの装着は必要とせず、歩く様子を動画撮影し、弊社が保有する画像解析技術と合わせて、歩行の可視化を達成すべく、解説解析ソフトを開発。健康診断などの評価項目に加えることで、高齢者や身体の不自由な方への健康指導の一環として役立てることを目的としています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

現在、学校法人順天堂大学などと共同で、信頼性、妥当性の検証を実施しており、2023年度の製品化に向けて開発を進めております。

当期の主な取組



Challenge to New Imasen

新事業開発

◆「令和4年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞 ～「受動歩行原理に由来する無動力歩行支援機の開発」～

当社製品である無動力歩行支援機「a L Q（アルク）」の国立大学法人名古屋工業大学との共同開発において「令和4年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。

aLQ

令和4年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰
科学技術賞 受賞者一覧（開発部門）

| 部門 | 候補者指名 | 所属・役職 |
|----|----------------|-----------------------|
| 開発 | （筆頭者） 佐野 明人 | 名古屋工業大学大学院 工学研究科教授 |
| | 植田 勝 | （株）今仙電機製作所 新事業開発本部 技師 |
| | 森 悠子 | （株）今仙電機製作所 新事業開発本部 担当 |




aLQ：バネと振り子の動きで、脚の振り出しをアシストします
フックとベルトで簡単に脱着できます

a L Qホームページ
<https://www.imasen.co.jp/alq.html>

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

25

なお、この領域におきまして、このたび、無動力歩行支援機、aLQの開発に関し、令和4年度文部科学大臣表彰、科学技術賞を受賞いたしました。名古屋工業大学の佐野教授の研究理論を基に、軽量で安全性を保ちながら、手軽に使い、日常生活での歩行支援に貢献し、健康で豊かな生活をサポートすることに寄与する点をご評価いただきました。

今後も名古屋工業大学との連携を維持しつつ、さまざまな研究を通じて事業の拡大を目指すとともに、福祉業界、スポーツ業界にも応用範囲を広げ、1人でも多くの方のQoL向上、健康増進に貢献し続けてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

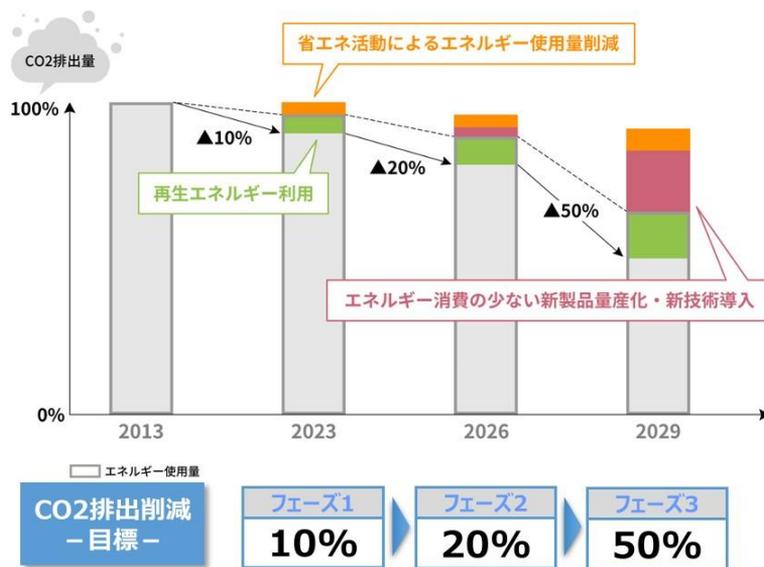


ESG経営の推進

◆CO2削減の目標 **E**



IMASEN Sustainable Plan 2030を策定し、全社活動にて2030年で50%のCO2削減を目指して推進していきます。



太陽光発電により岐阜工場の使用電力の20%~25%を供給



生産エリアのLED照明の導入完了
今後、事務所エリアへ展開予定

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

26

次に、環境への取り組みです。

当社では、IMASEN Sustainable Plan 2030 を策定しており、2030 年に 2013 年度対比 50%のCO2 削減を目標として掲げました。2 年前から専門の展開部署を設置し、既にさまざまな活動を実施しております。

部門ごとの小集団活動により意識の向上を図りつつ、CO2 排出の見える化などを経て、3 年ごとの三つのフェーズに分けたテーマに沿って、目標に向けた達成ストーリーを作成し展開してまいります。

その全社活動の一環として、マザー工場の岐阜工場では、昨年、自家消費型太陽光発電システムを設置し、稼働を開始しております。これにより、岐阜工場の使用電力の 20%から 25%を賄うことが可能となりました。

今後も再生可能エネルギー活用の取り組みや、環境対応製品の取り組みなども含め、目標達成に向け展開してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ESG経営の推進

◆新事業活用による地域社会への貢献 **S**

当社は一企業市民として地域社会への貢献を重要な取組と位置付けています。2021年11月に開発した「歩行測定システム」や、株式会社今仙技術研究所の義足・電動車いすなどを活用し、地域自治体と連携して社会貢献活動を推進しています。本件は愛知県犬山市令和4年施政方針にも盛り込まれ、現在連携して準備を進めております。



犬山市などと産官連携を進めます
(左 犬山市長 山田拓郎 様)



市長や市の職員の方々に歩行測定システムやスポーツ義足、小型モビリティを体験いただきました

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

産官連携の取り組みとしましては、愛知県犬山市など、地域自治体の方々との懇談会などを実施しております。先ほどご説明しました歩行測定システムや、電動車椅子をベースにした小型モビリティ、スポーツ義足の技術などを活用した地域貢献を提案させていただき、産官連携での取り組みにご快諾をいただいております。

犬山市では、令和4年度施政方針に、「今仙電機製作所と連携し、歩き方に関する新たな講座などを開催すること」を盛り込んでいただいております。犬山市以外にも、弊社の取り組みをご紹介して、歩行研究を通じた新事業の拡大とともに、地域貢献にも積極的に取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ESG経営の推進

◆コーポレート・ガバナンス体制の強化 **G**

【取締役体制の見直し】

2021年6月の株主総会において3名の独立社外取締役（うち女性取締役1名）を選任しました。

これにより取締役全体の3分の1が社外取締役で構成されることとなり、**企業経営の客観性、透明性、多様性が向上しました。**

| 取締役体制（2021年6月株主総会終了時点） | | | |
|------------------------|----------|-------|----------|
| 代表取締役社長執行役員 | 櫻井 孝充 | 社外取締役 | 永井 康雄 |
| 取締役専務執行役員 | 佐竹 克幸 | 社外取締役 | 新任 亀山 恭一 |
| 取締役常務執行役員 | 丹羽 良仁 | 社外取締役 | 新任 和田 浩美 |
| 取締役執行役員 | 木村 学二 | | |
| 取締役執行役員 | 山野上 耕一 | | |
| 取締役執行役員 | 新任 堀部 修一 | | |

※2018年7月より、代表取締役及び社外取締役、社外監査役で構成する指名・報酬諮問委員会を設置しております。

次に ESG 経営推進におけるガバナンスに関して、昨年 6 月の株主総会において、3 名の社外取締役を選任しまして、取締役全体の 3 分の 1 が社外取締役で構成されることとなり、企業経営の客観性、透明性、多様性を向上させております。

指名・報酬諮問委員会においては、社外役員を中心として構成され、コンプライアンス委員会、倫理委員会などにおいても積極的な意見をいただいております。

東証新市場区分への対応について

◆流通株式時価総額向上の基本方針の主な取組

| 企業価値の向上 | 市場認知度・評価の向上 |
|--|---|
| <p>▶中長期経営計画2029推進による事業の変革</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #ff9933; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <p>シート電装</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国内工場再編 完了 ●次期モデル向けコア製品開発 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070c0; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px; color: white;"></div> <p>電子</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開発人材と環境整備 ●電気駆動システム開発 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #ffcc00; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <p>新事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文部科学大臣 科学技術賞受賞 ●歩行測定システム開発 </div> </div> <p>▶顧客との関係強化、産学連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●シート：協業活動 ●電子：共同開発 ●新事業：国内外の大学との連携 | <p>▶ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化</p> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="background-color: #90ee90; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; color: white; font-weight: bold;">経営</div> <ul style="list-style-type: none"> ●社外取締役3名選任(うち1名女性) 取締役全体の3分の1となり 客観性、透明性、多様性が向上 </div> <p>▶IR、PR活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●HP刷新 (21年6月～) ●社長ブログ (22年1月～) ●公式Twitter (22年4月～) <div style="text-align: right;">  </div> <p>※情報発信の機会を増やしPRを強化</p> |

「26年3月期末」までに流通株式時価総額の基準を満たすべく各種取組みを進めます

次に、東証新市場区分への対応についてご説明いたします。

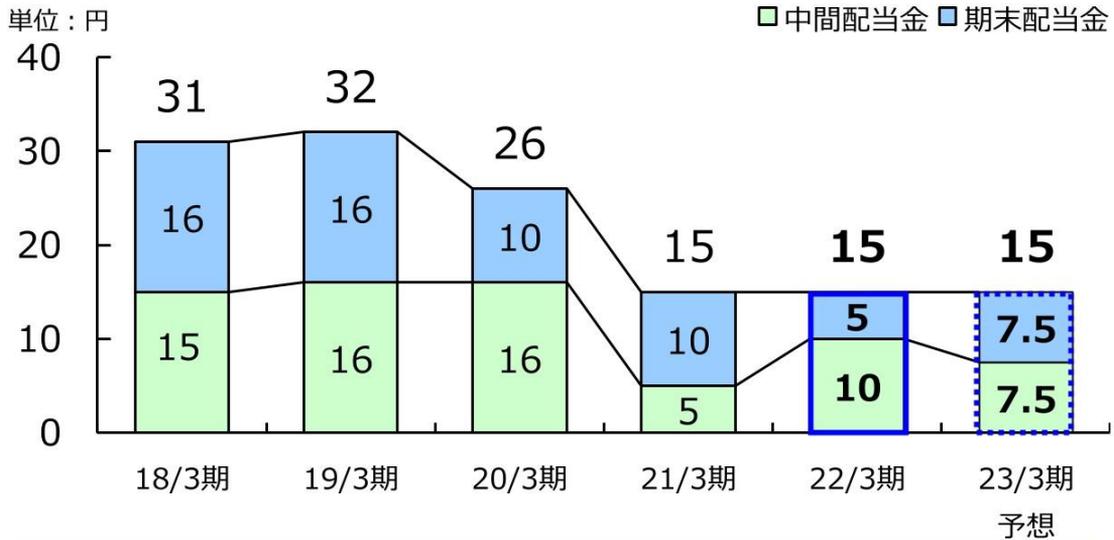
当社は2022年4月からの区分見直しにあたり、ステークホルダーに対し、持続的な成長と企業価値向上へのコミットとともに、より良い人材確保を狙い、最上位区分のプライム市場を選択いたしました。

しかし、移行基準日時点で、上場基準の流通株式時価総額について条件を満たしていないため、26年3月期末までに企業価値および市場認知度・評価の向上に取り組み、条件達成を目指してまいります。

まずは、各事業の基盤強化および健全な収益構造を構築するとともに、積極的な情報発信をしながら、当社への投資価値をご理解いただくべく、取り組みを進めてまいります。また、引き続きコーポレートガバナンス体制の強化にも努めてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



株主の皆様への安定的、継続的な利益還元を行う配当政策の基本方針に基づき、業績の内容を勘案し、期末配当金は1株当たり5円（年間配当金は1株当たり15円）とさせていただきます
 23年3月期も、半導体不足や原材料・輸送費高騰など先行き不透明な状況ですが、配当方針の安定配当に基づき、年間配当金は1株当たり15円を予定しています

最後に、2022年3月期の配当および2023年3月期の配当予想についてご説明申し上げます。

2022年3月期の配当につきましては、当社の配当政策の基本方針である、安定的、継続的な利益還元に基づき、業績の内容を勘案いたしまして、期末配当金は1株当たり5円とさせていただきます。

2023年3月期につきましては、不透明な環境が続くものと想定しておりますけれども、前期と同様の年間配当金、1株当たり15円を予定しております。

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。複製及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所
グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当
TEL 0568-67-1517
URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

32

昨年からスタートしております中長期経営計画の中で掲げております「Trust & Challenge」の言葉も、社内ではずいぶん根付いてきたことを感じます。

フェーズ1において掲げる「Challenge to New Imasen」、新しい今仙に向けた土台づくりに向け、全社一丸となって取り組んでまいりますので、今後もぜひご注目いただきますようお願い申し上げます。

長時間にわたりご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

質疑応答

司会 [M]：ありがとうございます。それでは質疑応答に入らせていただきます。なお、この IR ミーティングは、質疑応答部分も含め全文を書き起こして公開する予定です。従いまして、質問される際、会社名、氏名を名乗っていただいた場合はそのまま公開されます。もし匿名を希望される場合は、氏名を省略していただいても結構です。それではどうぞよろしくお願いいたします。

ではこちらの方、少しお待ちください。

藤原 [Q]：ご説明ありがとうございます。日刊自動車新聞の藤原です。いつもお世話になります。

今期の業績のところ、原材料価格の高騰ですとか、あと海上輸送のところ、かなり影響を受け、収益改善でいろいろ経費削減などに取り組まれている、ということですが、例えば価格転嫁ですとか、お客さんにこれからお願いしていくことは考えておられるのか。教えてください。よろしくお願いいたします。

櫻井 [A]：ありがとうございます。価格転嫁につきましては、昨年度から原材料、鋼材、樹脂材といった材料の値上げがございすけれども、昨年度よりお客様に対して、価格の見直しといった交渉は続けております。

ただ、まだまだ十分な原材料の値上げに対する価格見直しに至っていないのが現状でございますので、これについても引き続き、今年度の中で交渉を行っていくことで、その差を詰めていくようなことを展開していく予定でございます。

藤原 [Q]：ありがとうございます。具体的に効果が出てきそうなところを。ちょっと不透明なところはありますか。

櫻井 [A]：なかなか具体的にというと、正直今までのところ、かなり苦労しながらやっているというのが現状でございます。

先ほども満足ではないと申し上げましたが、本当に厳しい交渉状況になっております。我々としてはやはり影響の大きいメーカー様を中心に、先ずは取り組んでいっております。そういったところを何とか頑張っ、今年度も、かなりのところで鋼材悪化の部分を予想の中に含んでおりますけれども、そこを改善のポイントとして捉えて、今期 23 年 3 月期の決算においては、今の発表した内容に対して、改善が図れるよう努力していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



藤原 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。続いてご質問どうぞ。よろしいですか。特にないようございます。会社様から、もし何か追加事項ございましたらいかがでしょう。

櫻井 [M]：昨年度の決算においても、7,000 万の赤字というところが、我々にとっても非常にふがない結果だと捉えております。最終的に何とか利益は確保するという事で動いてきたものの、最終的に一過性の問題等でマイナス計上しなければならない事態に至ってしまいました。

今年度においては、そのような管理上のミスなどを徹底的に見直し、かつ事業の改善、それからシート、電子、新事業といった、この3本足の構築といったところをしっかりと作り上げる。そのために、まず第2の柱である電子を、今年度は確実に大きな成長を果たせるような基盤をつくっていく、ということで展開してまいりたいと思います。

今々、非常に厳しい環境ではございますけれども、何とかわれわれが掲げる2029年3本足の事業構造をしっかりと作り上げた上で、さらなる企業成長と社会貢献に持っていきたいと思いますので、引き続き皆様のご支援、ご鞭撻等、ご指導等をいただきますよう、よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。以上をもちまして本日の説明会を終了いたします。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

